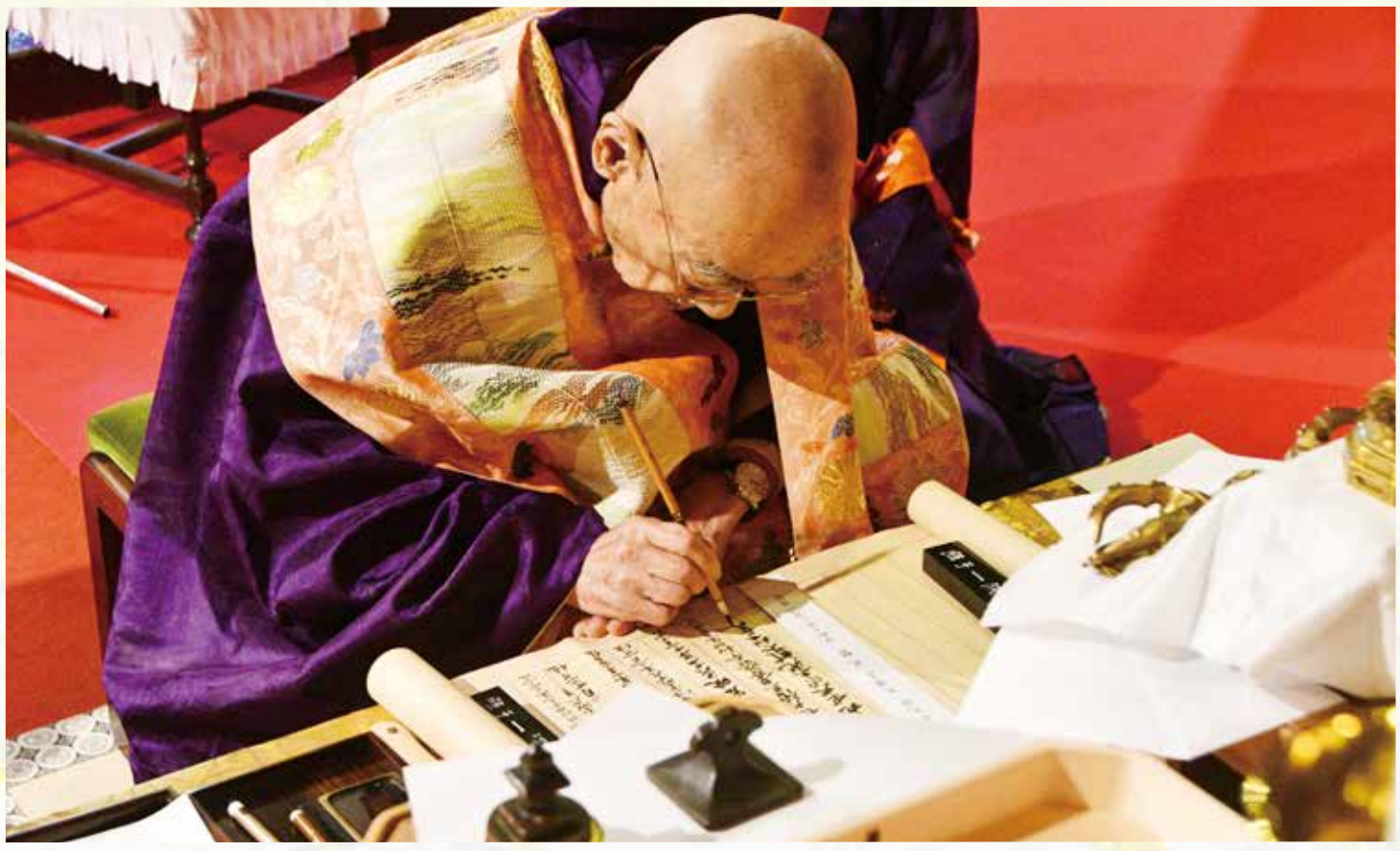
The TENDAI journal
天台ジャーナル
令和7（2025）年7月1日 火曜日
（毎月1日発行）1部80円（消費税込・送料別）
広報天台

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長　坂本　圭司
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内　電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp

「道心」をもって仏国土建設へ

藤光賢天台座主猊下が法燈をご継承



今冬2月1日に第259世天台座主にご上任された藤光賢探題大僧正の「傳燈相承式」が6月10日、比叡山延暦寺根本中堂にて厳かに執り行われた。藤座主猊下は、本尊薬師如来のご宝前において『傳燈相承譜』に署名され、宗祖伝教大師より連綿と伝わってきた法燈を継承された。同日午後からは、「傳燈相承祝賀会」が京都市内のホテルで開催され宗教界はじめ、政財界など各界から約600名の来賓が出席し、藤座主猊下のご上任を祝した。

傳燈相承式は天台宗最高の慶事とされる。藤座主猊下が乗られた殿上輿は午前10時過ぎに控え所である大書院を出立。翠雨が延暦寺境内の新緑を一層輝かせる中、天台宗要職や延暦寺一山住職らの出仕僧を伴われて根本中堂までを進まれた。

入堂された藤座主猊下は、登壇・焼香後、荘厳な祝祷唄が堂内に響き渡るなか、『傳燈相承譜』にご署名された。（写真）

座主猊下の御心を旨に

傳燈相承譜は、第一世天台座主義真和尚から第258世大樹孝啓前座主までの歴代座主が就任の証として署名されている座主血脈（けちみゃくふ）譜である。

根本中堂中陣には祭壇が設えられ、正面左に桓武天皇御真影、右に宗祖伝教大師御影を奉安。その宝前に、八舌の鑰（やく）、勅封の鍵、五鈷、鉄散杖、一字金輪秘仏などの伝教大師ゆかりの秘法具や大乗戒伝授に欠かせない仏舎利などが供えられ、新座主猊下に継承された。

そして滞りなく古式に則った儀式を修された藤座主猊下は、天台座主として宗徒に『諭示』を発せられた。

この後、天台宗を代表し細野舜海宗務総長が「『道心』の志をもって仏国土の建設達成に邁進されますことを切に望みますとのお言葉を賜りました。私ども宗徒は、座主猊下の御心を旨とし、檀信徒の皆さまと共に仏国土建設に邁進すべく、心を新たにしております」と祝辞を述べた。

極微（ごくみ）

「何かがおかしい」。最近、季節の変わり目を迎える度に、そう感じる。日常会話でも頻繁に出てくるから、不気味に思っている人も多いのだろう▼特にこの時期は、梅雨入りと梅雨明けが気になるところ。梅雨入りは沖縄県から順に発表されていくが、気象庁の統計でも、ここ2年は「かなり遅い」「遅い」の文字が並ぶ。反対に沖縄県と奄美地方に限り梅雨明けも「かなり早い」が続く。気象予報士らも予想しづらいと頭を抱えているらしい▼梅雨は、太平洋高気圧とオホーツク海高気圧の間で梅雨前線が停滞し、雨が降りやすくなる現象をいう。日本を含む東アジア特有の気象で、平安和歌にも「五月雨」や「長雨」と表現され、雨に関する多くの名歌が残されてきた。紀貫之や和泉式部などの歌人らが詠む世界は、この時期特有の刻一刻と変わる空色、雨に例えた切ない恋心、四季がもたらす自然の恵みなど。情感が溢れる内容で古き良き日本の姿を伝えている▼だが、現代では悠長なことを考えてはいられなくなった。しとしとと降る長雨ではなく、突然の豪雨が襲うかと思えば、梅雨明けと勘違いするほどの猛暑が続いた。農作物への影響も計り知れない。6月からは政府主導で職場への罰則付きの熱中症対策の義務化が始まった。ジメジメとした梅雨が明けるのが待ち遠しかったことが懐かしくさえ感じる。もはや迫り来る厳夏を迎える準備期間になりつつある。